

自己決定と自己開示できる環境 から作られる人間関係

上越教育大学大学院1年
久光 敏史

0 . 発表事項

- 1 . 研究のきっかけと背景
- 2 . 研究の目的
- 3 . 調査事項
- 4 . 途中経過
- 5 . 今後の課題

1. 研究のきっかけと背景(1)

- 子どもたち同士はいったいどのようにして人間関係を形成して仲良くなっていくのだろうか？

1. 研究のきっかけと背景(2)

N青年の家が主催した

「自然体験指導者養成セミナー」に参加



短期間の子どもの変容に驚き、疑問が生じた

1. 研究のきっかけと背景(3)

古田(2001)

コミュニケーション活動は子ども相互の人間関係と密接な関係があり、その人間関係は、子どもの発達、特に社会性の発達に大きな役割を担っている。

小林(2003)

学習を進めることと、人間関係をつくることを同時に行っている。

1. 研究のきっかけと背景(4)

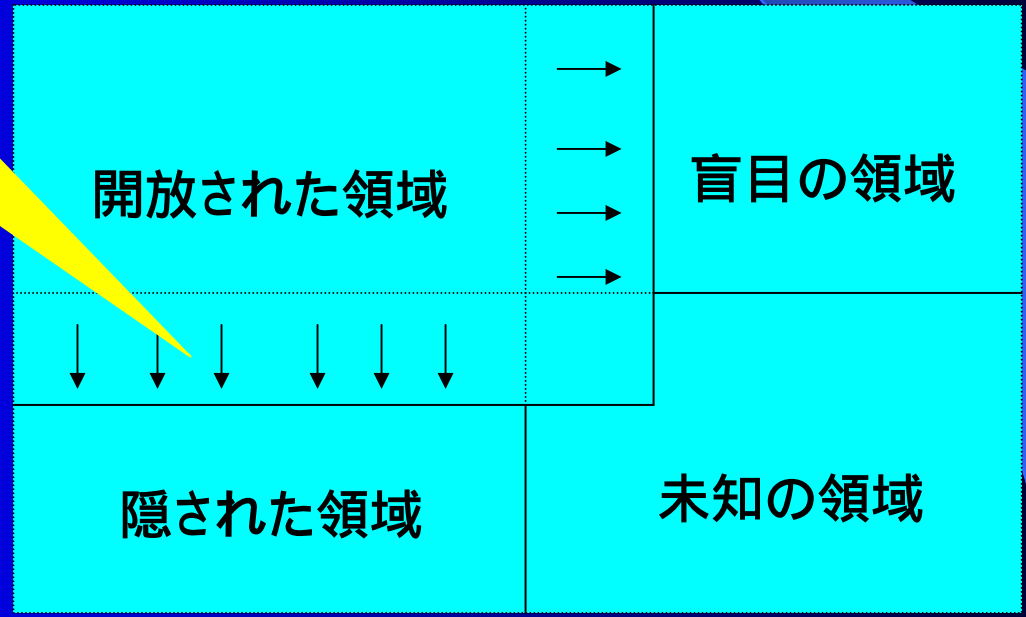
(ジョハリの窓)

自己開示

私

知っている

知らない



他人

知っている

知らない

2. 研究の目的

子どもたちが目的を共有化した上での自己決定、
また、自己開示できる環境での一連の活動は
短期間に仲良くさせるのに有効であることを
明らかにする。

自己決定とは？

- 自分の行動を自分自身で決めること
- 自分で決めた行動に対して、自分自身の責任があること

自己開示とは？

- 自分の気持ち表現すること
- 相手に自分の気持ちを理解してほしいという願望

3. 調査事項

- 調査時期：平成15年10月6日～10月9日
- 調査場所：N青年の家
- 調査対象：岐阜県公立E小学校5年生
- 調査内容：子どもの宿泊を伴った野外体験活動
- 調査方法：ICレコーダーによる就寝前会話記録
およびビデオカメラ、デジタルカメラによる行動記録
- 子供の目標：「発見～自分・友達」自分を見つめなおし友達のよさを発見しよう

4. 途中経過

- 環境の設定 (1)
- 自己開示 (就寝前の会話) (2)
- 自己決定 (野外活動の会話) (3)
- 就寝前と野外活動の会話のつながりとその共通点 (4)

宿泊活動における教師と 子どものかかわり(1)

- 目標の提示(課題の設定)
- 環境の設定
- 評価

責任



子どもたちが自己決定、自己開示
できる環境を作る

宿泊活動における子ども同士 のかかわり(1)

子どもたちが仲良くなる



???



子どもたちが自己決定、自己開示
できる環境

就寝前の会話内容(1日目)(2)

- 何が好きか？
- 自分の経験談
- 現状についての意見を聞く



誰でも簡単に答えることができる質問などで
話に盛り上がりが見られる

就寝前の会話(1日目)の プロトコル(2)

- 1: あたし…
- 2: 「「たべた？」
- 3: かれーぱん？
- 4: あたしもなんかおはなしする
- 5: あの味はうまかった
- 6: 「「なんかあたしもはなしするする
- 7: あはふいふいふいふいふ
- 8: なんかあたしもはなしする
- 9: 「「自分の一番大好きな食いもん何？、肉
- 10: 肉
- 11: ぐあははははは
(こんこん)
- 12: はーい、ぴーまんでありませう
- 13: うふふいふいふいふいふ

場の違い(2)

野外活動時(自己決定)

- 与えられた課題
- 教師がいる
- 評価される
- 可視化される
- 時間的制限がある

就寝前(自己開示)

- 課題なし
- 教師がいない
- 評価されない
- ローカルな可視化
- 時間的制限なし

場の雰囲気を読むこと(2)

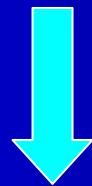
- 自分が話すタイミング
- 自分が話す内容を選択
- 相手の話を聞く姿勢
- 相手の話の理解する



コミュニケーションスキル

就寝前の会話からわかったこと(2)

場の違いより場の雰囲気を読み取る



話したくなる・話せる雰囲気になる



ローカル会話において自己開示する
コミュニケーションスキルの向上

就寝前の会話(1日目)の プロトコル(2)

(こんこん)

1: はい

2: ぴーまんでありまする

3: うふいふいふ

4: となりのへやからちょっとねむれないって

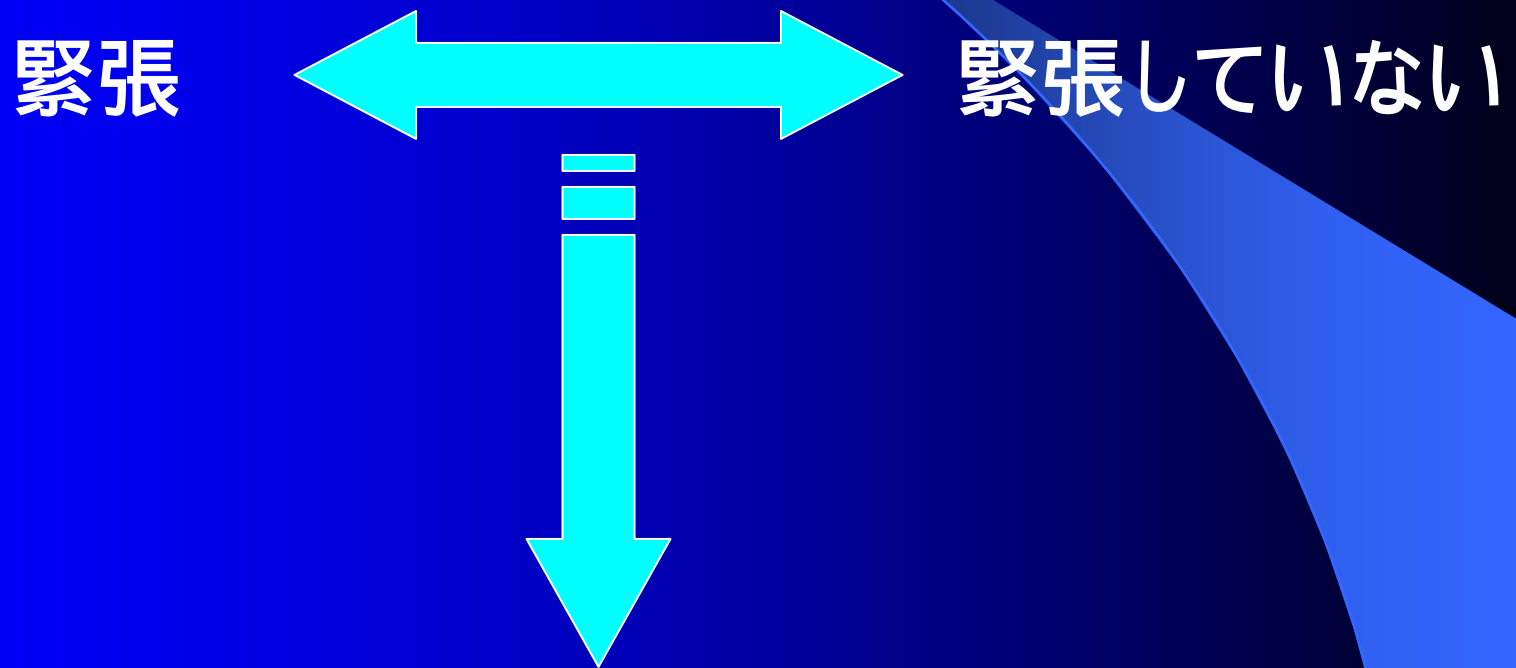
5: はい

6: はい

7: ちょっとしずかにして

8: はいすみません

就寝前の会話からわかったこと(2)



気持ちの変化がまとまりを作る

野外活動の会話において(3)

さらに子どもたちが仲良くなる



課題達成へ向けてコミュニケーションをとる



話したくなる・話せる雰囲気になる
コミュニケーションスキルの向上

場の違い(3)

野外活動時(自己決定) 就寝前(自己開示)

- 与えられた課題
 - 教師がいる
 - 評価される
 - 全体に可視化される
 - 時間的制限がある
- 課題なし
 - 教師がいない
 - 評価されない
 - ローカルな可視化
 - 時間的制限なし

野外活動の会話のプロトコル(3)

1A: たまねぎ どういう風に切る？

2B: たまねぎ？

3A: C、たまねぎ どうやってきる？

4C: たまねぎは みじんぎり

5B: みじんぎりにしないでしょ

6D: みじんぎりもいいじゃないか、おいしそうだな

7C: まず半分に切って、

つぎに ちょんちょんちょんって



野外活動の会話からわかったこと(3)

- 課題達成へ向けての会話が多い
- 課題達成へ向けて協力する
- 活動班の班内外の会話がある

就寝前と野外活動の会話のつながり(4)

就寝前の会話と野外活動の会話によって得られたものが蓄積、そして相乗効果を示す



一連の流れが3日間続く



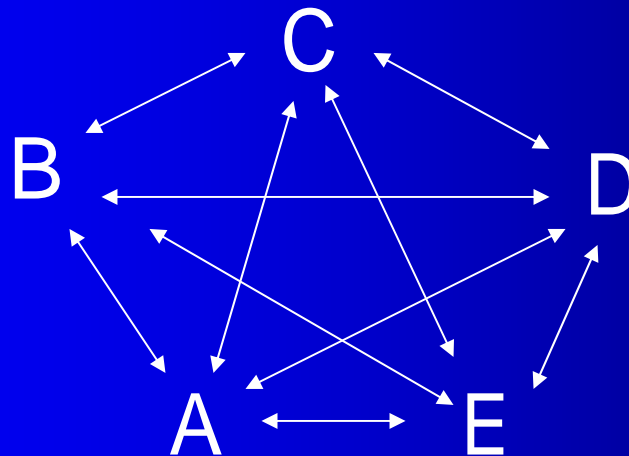
短期間に仲良くなることができる。

就寝前と野外活動の会話の共通点 (4)

1対1の会話



会話のネットワーク的広がり



ここまでの結論

- 教師が子供の自己決定および自己開示できる環境を設定した。
- 寝食ともにすることで、子供が自己開示、場の雰囲気を読み取り、コミュニケーションスキルが向上した。
- 自己決定できることと時間的ゆとりがあったために子どもたち同士のスタンスで課題を考え、取り組んだ
- 気持ちの変化(緊張 緊張していない)が子供たちの凝縮力を生んでいる



仲良くなる

5. 今後の課題

- 数値としてのデータを出す
(ex: つぶやきを拾う会話、会話の受け答え)
- 喧嘩などをどのようにとらえるか？
- 行動分析を行う。